

成長期の体と心の変化を学んで 自分らしさを大切にしよう！

子どもから大人になる成長期は、体や心に様々な変化が起こります。その入り口は、8、9歳ごろ。
東京都・渋谷区立加計塚小学校の4年生が、シック・ジャパン(株)主催で行われた産婦人科医・高橋幸子先生の授業を通じて、成長期の変化や、生命の神秘、自分らしさなどについて学びました。

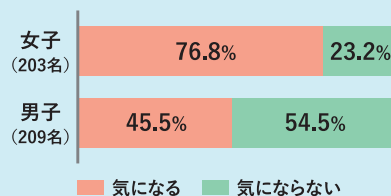


産婦人科医
高橋幸子先生
(サッコ先生)

たかはし・さちこ／産婦人科医。埼玉医科大学医療人育成支援センター・地域医学推進センター勤務。日本家族計画協会クリニック非常勤医師。彩の国思春期研究会西部支部会長。著書に『サッコ先生と！からだこころ研究所 小学生と考える「性ってなに？」』(リトルモア)など。

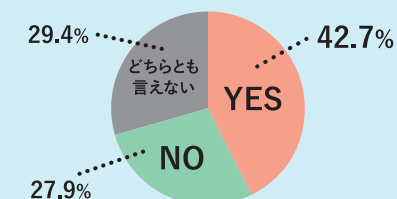
体の毛について、 小中学生はどう思っている？

- あなたは自分の体の毛が
気になりますか？(男女412名回答)



体の毛は男子よりも
女子のほうが気になっている

- 毛のことを話すのは恥ずかしいと
思いますか？(男女412名回答)



42.7%が毛のことについて
話すのが恥ずかしいと感じる

出典:シック・ジャパン(株) 小中学生の体毛に関する意識調査
全国インターネット調査、2022年6月実施 対象者:9～15歳の男女

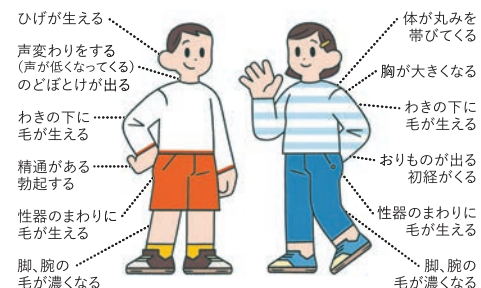
命のつながりと 体の成長の話

これから体と心に変化が表れ始める4年生を対象にした出張授業は、年間120以上の学校で性教育などを行う産婦人科医・高橋幸子先生を迎えて行われた。「サッコ先生と呼んでください」とあいさつし、「大切な生命のつながり、体の成長の話をしします」と授業をスタート。まず1枚の赤ちゃんの写真を見て、男の子か、女の子かをみんなで考えた。サッコ先生は、性別には体で判断するほかに、心の性別、好きになる性別、表現する性別の四つがあり、この組み合わせが一人ひとり様々で、違っていいと伝えた。

次にサッコ先生は、体に関する三つの科学についての話を始めた。一つ目は、生まれる前の赤ちゃんは、おなかで何をしているのか。二つ目は、どうやって赤ちゃんは生まれてくるのか。三つ目は、おなかの中に赤ちゃんはどうやって入ったか。先生が「みんなも科学者になったつもりで考えてみて」と

言うと、子どもたちは積極的に答えていた。三つの科学についてわかると、先生自身が特別に用意した出産動画を先生の解説つきで視聴し、生命の誕生の瞬間を見ることができた。

思春期におこる第二次性徴



体が変化するとき 大事な「自分らしさ」

後半は、体毛について取り上げた。小中学生の男女約400人へのアンケートでは、女子の76.8%が「自分の体の毛が気になる」と回答。「体の毛をそったことがあるか」という質問でも、約78%の女子があると答え、いず

れも男子を上回った。全員に聞いた「毛のことを話すのは恥ずかしいと思うか」に対しては、42.7%がYESと回答。サッコ先生は「そのが残すかは自分で決めていい」と伝え、毛や性について話す機会がないと、恥ずかしいとか話してはいけないになってしまうため、「話す場があることがとても大切」と教えた。

体毛が気になったときのために、自宅のできる簡単な方法を、シック・ジャパンの古川滋子さんがソーブつきカミソリ「イントゥイション」を使って実演した。①カミソリをお湯か水でぬらす②肌をぬらし、カミソリをすべらせるように力を入れずにそる③洗い流してしっかり拭く、という3つの手順。とくに②をゆっくりと行うことがポイントといい、希望した子どもたち4人が体験した。サッコ先生は、注意事項として「カミソリは1人につき一つ」と付け加え、「みんなで同じものを使わない



この出張授業は感染予防対策を講じた上で開催しました。集合写真の撮影時のみマスクをはずしています。

ことと、何回か使ったら刃を取り替えて清潔に保つことが大切」と説明した。

最後に先生は、子どもたちに「相談できる大人を3人思い浮かべてください」と言った。家族、学校の先生、保健室の先生……困ったら頼れる大人に相談するようアドバイスし、授業を締めくくった。生命や性、体毛について考えた授業は、自分にも周りにも思いやりをもって成長期を迎える準備ができる、貴重な機会になった。

詳しい情報は特設ページへ
qrco.de/asahi-h



Schick
It's in your hands®